

はじめに

私ども独立行政法人労働者健康福祉機構の労災病院グループでは、国民の職業や職場環境に関連する「職業性疾病」について、高度・専門医療を実践して参りました。また、この医療実践におけるスキルや知見を活かす形で職業性疾病の予防、医療技術の研究・開発、普及に取り組んでいます。

この普及や研鑽の一環として、労災病院グループの医師・研究者は、国内外で行われる学会などへの参加や、論文発表等を積極的に行っています。「アスベスト疾患根絶のためのアジア・アスベスト・イニシアチブ」(AAI)もその一つで、そこでのモンゴル国の医学専門家との交流から、今回の「炭鉱労働者のじん肺とアスベスト関連疾患の診断と治療のための実践ワークショップ」の企画が生まれました。

アジアにおける新興国の目覚ましい経済発展は周知のとおりですが、その一方で、既にわが国が直面し、経験してきているのと同様、じん肺やアスベスト関連疾患をはじめとする職業性疾病の増加が懸念されているところです。モンゴル国でもその予防と対策に力を入れはじめたところ、先の交流をきっかけに、モンゴル国政府よりわが国の厚生労働省に、じん肺とアスベスト関連疾患関係の専門家の派遣要請がありました。これを受け、平成22年8月に当機構の専門医師ら4名が、モンゴル国の首都ウランバートルを訪問しました。

本書は、そのワークショップの記録を中心にまとめたものです。発行の趣意は、“医療・医学を通じたアジアへの貢献”をキーワードに、初の試みとなる今回のワークショップを紙上で再現し、またワークショップを通じて見えてきた貢献のあり方、展望・課題等をまとめ、ひろくこの活動の意義や有用性を知っていただくという点にあります。

全体を三部構成とし、まず第Ⅰ部では、当機構で行っている医学研究の概要をご紹介します。「粉じん等による呼吸器疾患」分野と「アスベスト関連疾患」分野を中心に、その他アジアの国々に参考にしていただけそうな数分野を取り上げ、ご紹介しました。

第Ⅱ部がワークショップの再現です。じん肺とアスベスト関連疾患の各セッションについて、当日使用したスライドを掲出し、モンゴル国の医師のご発言や様子も含め、講義を再現しました。また、今回のワークショップにおいて通訳の労をお取りいただいた産業医科大学助教のVanya Delgermaa先生にも、モンゴル国におけるアスベスト問題についての貴重な論文をご寄稿いただきました。

第Ⅲ部では、今回のワークショップをさまざまな角度から総括・検証し、今後の展望を見出すことを目的に開催した座談会を収録しました。この座談会は関原総括研究ディレクターの司会により進められ、アジアにおけるアスベスト問題に造詣が深く、先のAAIにおいて日本での主導的な役割を果たしておられる産業医科大学教授の高橋謙先生にも、Delgermaa先生とともにご参会いただき、充実した話題をご提供いただきました。また高橋先生には、そのAAIの活動のご紹介とともにアジアにおけるアスベスト問題についての、これもまた貴重な論文をお寄せいただきました。

両先生の当機構への並々ならぬご指導・ご助力に、この場をお借りして深く御礼申し上げます。本書が、国内の関係各位はもとより、ひろくアジアの国々の皆さんのお役に立つことを願うものです。

平成23年3月

独立行政法人労働者健康福祉機構 岡山労災病院 院長
清水 信義